

ゆもと通信

大田区 地元の『ゆもと』

2018年 第**11**号

大田区議会議員(3期目) 大田区へ政策提言



ゆもと良太郎 プロフィール

42歳3児の父

昭和51年5月10日

大田区大森生まれ(A型)。
大森幼稚園・大森第五小・日大三中・日大三高を経て明治
大学商学部貿易コース卒。都議会議員秘書を経て、

平成15年4月

大田区議会議員選挙に自由民主党公認若干26歳で初出
馬、初当選(5536票)。66候補者中、新人1位。

平成19年4月

大田区議会議員選挙にて2期目の当選(5419票)。

平成27年4月

大田区議会議員選挙において3期目の当選(5523票)。

環七・第一京浜・産業道路・国道357線

区内の主要幹線道路が集中する臨海部と市街地の
結節点である大森本町・東・西の渋滞解消に向けて

大田区の臨海部の道路交通事情はここ近年で大きく変化しております。平成14年に臨海トンネルが完成し、平成24年にはゲートブリッジが開通をし、葛西、千葉方面に抜ける通行車両が増えております。また空港の国際化や港湾機能の強化により大井埠頭含め東京港からの物流車両の増加など交通渋滞は以前にもまして深刻な状況となっております。今後の計画に目を向けると中央防波堤の埋め立て後の活用

やオリンピックに伴うお台場、有明、豊洲の活用を考えると交通量増加に与える影響は大きなものがあると想定できます。

大田区において臨海部と市街地をつなぐアクセスポイントは幹線道路でいうと環八と環七の2か所の幹線道路に集約をされてしまう状況にありますので、**臨海部と市街地を結ぶ幹線道路の渋滞がとて深刻です。**大田区では、『大田区交通政策基本計画』において、臨海部の課題として交通渋滞の緩和、道路交通の円滑化、交通アクセス等を位置づけ、将来像として臨海部と内陸部が公共交通でスムーズに結ばれる東西軸の充実を目指しておりますが、用地確保も困難な状況にあり交差点改良などの対応に苦慮しているのが現実です。

そこで解決策として考えられるのは、

**臨海部と市街地の交通結節点を
増やすことであると考えます**

そこで裏面につづきます

皆様のご意見をお聞かせ下さい

大田区議会議員 ゆもと良太郎事務所

〒143-0011 東京都大田区大森本町2-31-10 TEL.03-3765-1464 FAX.03-3765-1482
<http://www.yumoryo-otacity.jp> ☒ info@yumoryo-otacity.jp

大森南・東から昭和島駅(モノレール)へ 車でアクセスできる都市計画道路 『放射18号線』の実現に向け可能性を模索

この計画は昭和島から産業道路への車でアクセスできる環境を整える計画です。

現在は大森南、東から昭和島に行くには、避難橋という人道橋を使って昭和島までアクセスをされている方が多いと考えられます。このルートは**徒歩か自転車**でしか通行することができない状況です。高齢化社会への対応や(昭和島駅へ車での送迎が飛躍的に短縮)、島部の防災対策、夜間利用の治安向上といった観点からも、ここに橋が架かり、車両での往来ができれば公共交通機関(バスの運用)で昭和島駅へアクセスできる環境整備も実現可能となります。また、昭和島・京浜島へ緊急車両で駆けつける時間の大幅な短縮も可能となります。臨海部は大田区が現在進めている『スクエアのまちづくり』(大森・蒲田・羽田・臨海部)の一角です。また、昭和島は区民がスポーツに親しめる貴重な環境が整っており、この場所をより安全に、そして安心して利用できるまちづくりにも放射18号線の実現は寄与をします。

モノレールを使えば「昭和島から浜松町までは12分」、交通不便地域と言われる大森南・東は実はとても便利な場所へと変わる可能性を秘めています。

交通インフラを最大限に活用したまちづくりは都市計画の基本的な要点ともいえます。地域住民や昭和島運動場利用者の皆様の意向も伺い、可能性を模索して参ります。

